

## 令和5年度第1回沖縄県公立大学法人沖縄県立芸術大学評価委員会 議事概要

### 1 開催日時

令和5年8月17日（木）10:00～12:00

### 2 開催場所

公立大学法人沖縄県立芸術大学当蔵キャンパス管理棟2階第1・2会議室

### 3 出席者等

（出席）

石田 むつみ 委員（日本公認会計士協会沖縄会会員（石田むつみ公認会計士事務所））

金城 真次 委員（公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団芸術監督）

砂川 昌範 委員（公立大学法人名桜大学学長）

西村 貞雄 委員（琉球大学名誉教授）

福地 敬 委員（一般財団法人沖縄美ら島財団事務局長）

以上 委員5名中5名出席

（事務局）

沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課

### 4 会議次第

（1）開会

（2）あいさつ

（3）審議

【議題】令和4年度公立大学法人沖縄県立芸術大学業務実績評価について

（4）閉会

### 5 議事の要旨

〔事務局〕

#### ■定足数の確認

委員5名中5名出席。沖縄県公立大学法人評価委員会条例第6条第2項による定足数を満たしている旨報告。

#### ■沖縄県公立大学法人沖縄県立芸術大学評価委員会運営要綱第2条第2項に基づき、西村委員長により議事を進行。

■会議の公開・非公開

委員長から、沖縄県公立大学法人沖縄県立芸術大学評価委員会運営要綱第3条の規定に基づき、公開することにより公正かつ円滑な審議等が著しく阻害され会議の目的が達成できなくなると認められるため、会議を非公開とすることとし、出席委員全員の賛同を得た。

【審議事項について】

- 令和4年度公立大学法人沖縄県立芸術大学業務実績評価について、公立大学法人沖縄県立芸術大学から業務実績報告書の概要を説明。その後、質疑応答を行った。

【委員質問】

(委員)

- 決算報告書の補助金等収入について、決算額が予算額よりも減少している理由と、中期計画への影響について聞きたい。  
→補助金は、事業終了時に申請して受ける形となっており、何か予定したものをやめたとか、できなかったというわけではない。
- 施設整備の計画変更について中期計画への影響はないか。  
→屋根外壁防水工事を実施するにあたり、建物ごとに個別に実施するよりも、まとめて実施の方が効率的ということが判明し、計画を変更した。複数年で見た場合、中期計画への影響はない。
- 施設整備の計画変更について、財源は確保できているのか。  
→県と調整して進めているところ。中期計画への影響はない。

(委員)

- 地方独立行政法人法の改正に関して、年度評価を継続するのか、それとも評価指標はもう立てられているので、各年度の評価は省略して、4年目、6年目の見込み評価と最終評価のみをやるのか、お考えを聞きたい。  
→年度評価は県の所管であり判断は致しかねるが、取り組みそのものは継続する。年度評価を継続して実施しないと見込評価と期間実績評価を適切に評価できないため、年度評価の自己評価は継続したいと考えている。第三者機関を設置して外部評価としてやるということを構想している。

(委員)

- 業務実績報告書の24ページに収入未済の解消及び授業料等収入の期限内徴収という年度目標があるが、これは、財務諸表1ページの流動資産の未就学生納付金収入の不能引当金98万円と関連しているか。また、不能引当金の計上というのは、どのぐらいの期限をもって不納として判断しているか。
- 徴収できなかった納付金の引き当てに関するものとして積み上げているところ。特に期限を定めておらず、除籍等の事案が発生した場合に引き当てるものとしている。

(委員)

- 学校推薦型選抜に対する改善など、志願者を増やしていくためにどのような仕組みを考えているか。また、高大接続に関して、芸能研究所やピアノ教室など民間で研鑽を積んでいる生徒について、学校では一部しか把握できないところがあると感じている。そのような方々にも県立芸大を志願してもらえるよう、情報収集の仕方を工夫する必要があるのではないか。
- 学校推薦型選抜と総合型選抜方式との明確な差別化を念頭に検討しているところ。また、高大接続に係る連携を進めており、学校現場との意見交換・情報収集を行っているところ。

○大学独自の授業料減免の対象者はどのぐらいいるか。

→毎年度10名を選抜している。

○ホームページの学生に対する経済的支援の最新情報が2021年でとまっているが、学生に着実に伝わっているのか。

→大学独自のものだけでなく様々な給付型の奨学金があるが、学生支援システム（UNIPA）を活用しており、情報があれば速やかに周知している。

(委員)

- ホームページに奨学金の実績が公開されていれば、授業料の面を心配している受験生が受験を考えるきっかけになるはずである。この情報をアップデートする専任者はいないのか。
- 兼務でやっている。奨学金のメニューについては常々公開しているが、実績の部分については、別の担当がいることもある。大学の総合的な広報、入試の広報はそれぞれ別の部署が行っており、この件にかかわらず一元化の改善をしているところ。

- 質疑応答の後、公立大学法人沖縄県立芸術大学の関係者は退出し、項目別評価の審議に入った。事務局より項目別評価案を説明したところ、以下の意見が出された。

(委員)

○ II-7 ページの「情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置」についてホームページアクセス件数を昨年度と比較すると、数値目標は達成しているものの5ポイント減少している。情報発信手段が多様化していることを念頭に、受け取り側がどのような情報を必要としているかの分析も必要ではないか。さらなる充実が期待される点の欄に何か記載すべきではないか。

○ 入学志願者を増やしていくことに関して、外部からどう見られるかという点をもっと意識すべきではないか。高校の先生からだけでなく、民間なども含め広く情報収集を行い、双方向の議論をやっていくべきだと思うが、この点についてはまだまだ意識が足りないと思う。

○ 大学としてどういったチャンネルを活用して、大学に入ってきていただくかということを経営的に考えていかなければならないと思う。1つポテンシャルとして期待できるのが、沖縄県の大学進学率は40%台であり、全国平均が大体55%であることを踏まえると、沖縄はポテンシャルがあると思っている。

○ 予算を効率的に使って剰余金が出た場合は、追加で計画を立てて志願者を増やすためのイベントを開催したり、翌年度の計画を前倒したりするなど、もっと柔軟性を持った予算運営をしていくべきだと思う。

(委員長)

○ 項目別評価の審議について、事務局で議論を踏まえた修正案を作成し、次回の会議前に事前に提示していただくということでしょうか。

(委員全員)

○ 異議なし

**【閉会】**